



現在、宮城教育大学には**12人**の聴覚障害学生が在籍しています。

情報保障に奔走してきた先輩たちの恩恵を受けながら、それぞれが大学生活を過ごしています。情報保障の選択（情報保障を希望するかないか、ノートテイクがパソコンテイクか、等）ができるようになった今、きこえない・きこえにくいことでわからない・困ったという目の状況に対して自分がどう動いていくべきかを考える機会が少なくなっています。

情報保障が充実していく一方で、わたしたち聴覚障害学生にある疑問が生じています。「わたしたち聴覚障害学生は必要以上に受け身になってはいないだろうか？」このような疑問を起点に、本学の聴覚障害学生が取り組んできたことをご紹介します。

学生の声



取り組み

聴覚障害学生だけの企画



前期聴覚障害学生反省会



第2回聴覚障害学生懇親会

実習時のパンフレット作成



聴覚障害をわかりやすく伝え、理解してもらうために3人の学生が実習先で先生方や生徒たちに配布しました。

聴覚障害学生用のマニュアル作成

大学で情報保障を受ける上で、わたしたちは毎年のように同じような壁にぶつかることがあります。どのような心構えで情報保障を受け、より上手に情報保障とつきあっていくか、情報保障の枠を超えて自身の聴覚障害とどのように向き合うかなどを考えていけるような力をつけていきたいと考え、主に4年生以上による学生で作成しています。来年度も数名の聴覚障害学生の入学を想定し、マニュアルを参考によりよい大学生活を送ってほしいという願いが込められています。

マニュアルの項目リスト

- ・はじめに
(マニュアルを作るに至った経緯、歴史)
- ・テイクの受け方の基本的な知識
- ・手書きテイクの場合のテイクの受け方、準備
- ・パソコンテイクの場合
- ・音声認識の場合
- ・講義の形態ごとに紹介
(実技、ディスカッション、被通訳者が多いとき)
- ・Q&A
- ・教育実習
- ・ひとりひとりの実習の体験談
(子ども・先生とのコミュニケーションの取り方、授業の進め方)
- ・おわりに

今後の課題

- ・聴覚障害学生間での情報共有の充実
 - 聴覚障害学生が増えたことに伴い、情報共有が難しくなった現状を解決すべく、学生間の情報交換・交流の場を聴覚障害学生が主体的に設ける。
 - 講義をはじめとし、教育実習時や大学外等の場面で、わたしたちのきこえない・きこえにくいことによるさまざまな困難・切実な思いをどのように伝えるか、どのように情報保障を活用するか、といったことについて具体的に議論する。
 - マニュアル作成により、情報共有するとともに先輩たちへ情報や経験を引き継いでいく
- ・聴覚障害学生が主体的に活動する場の基盤づくり
 - 本シンポジウムに参加する、交流会を開くなど、その時々に応じて意欲的に活動していけるような場を設ける。



問い合わせ先
宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ
TEL・FAX 022-214-3651/E-mail Support-Coordinator@ml.miyakyo.ac.jp

